

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和3年9月5日	評価結果市町村受理日	令和3年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190103743-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190103743-00&amp;ServiceCd=720&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年9月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

彩り「ぎふ」は近くにスーパーやドラッグストアがあり、便利で静かな住宅街にあります。認知症でご自宅での生活が難しくなって入居をされた後も、そのひとらしい暮らしが継続できるよう、ご本人を中心にご家族と職員間で協力しながら支援しています。できる事は行って頂き、出来なくなった事はご利用者の尊厳に配慮したさりげないサポートを行い、ご利用者が安心してのんびり暮らせるような環境作り、個別ケアに努めています。また健康面では、訪問診療、訪問看護、訪問歯科と連携をとりながら、ご利用者様、ご家族が安心できる体制を整えています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に商業施設、学校、公園等のある便利な住宅街にある。その環境を活かして、外出や地域との交流を積極的に行いながら、利用者の充実した生活支援に努めている。コロナ禍の今は、感染予防対策を徹底した上で、利用者が小学生の下校時見守り隊として交流を継続できるよう支援している。24時間の医療連携体制を整え、利用者の日々の健康管理から看取りまで、質の高い支援を提供している。法人全体の充実した職員教育に加え、世代を問わず、職員同士が互いに高め合い支えあう関係が、利用者への良質な支援提供に繋がっている。管理者と職員の信頼関係、職場環境も良好であり、職員の定着率も良い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしく生きるを1F理念にし、一人ひとりの思いを大切に実践できるよう職員が目に入るところに掲示し、カンファレンスで確認しあっている。	事業所全体とユニット毎の理念を掲げている。職員はカンファレンスや実際のケア時に、理念に沿った支援が行えているか、互いに確認している。カンファレンスでは、事例検討を行い、互いの支援について振り返りながら、より良い支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動など地域の行事に参加している。現在コロナもあり散歩や外出の機会が減ったが、コロナ前は継続的に出掛け、近所の方にあいさつするなど交流をしていた。	自治会に加入しているが、コロナ禍の今、地域の文化祭等の行事は中止となり、今までのような交流は難しい状況である。外部の人との接触を考慮せざるを得ないが、感染予防対策を徹底し、清掃活動や小学生の下校時見守り隊等、地域の活動を継続できるよう工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できる限りご利用者様と外へ出向き、買い物している姿や何気ない会話を通して地域の人に普段の認知症の人の姿を知ってほしいと思いながら取り組んでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、予め報告書をお渡しし、意見を頂いている。感染症対策や非常災害について報告したりアドバイスを頂いてサービスの向上に活かしている。	感染症対策のため、隔月開催の運営推進会議は中止している。代替えとして、報告書を送付し、電話やファックスにて意見を得ながら、サービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	PCR検査や感染予防対策の研修会、避難確保計画の作成についての相談をしている。	行政担当者とは日頃から連絡を密に取り、協力関係を構築している。新型コロナウイルスの感染予防対策、PCR検査、災害時の避難確保について、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修で学びながら、身体拘束「0」にしよう会議を3ヶ月毎に開催し、利用者ひとりひとりについて身体拘束の可能性とそれを回避するための対策をユニット別に話し合っている。	法人内で職員研修会を実施し、年1回、利用者・家族への虐待に関する調査を実施したり、3ヶ月に1回「身体拘束を0にしよう検討会議」を開催し、身体拘束をしないケアの実施に努めている。職員同士が、利用者への関わり方をチェックし、課題がある場合には、担当を交代するなど、予防及び防止体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人代表が月2回オンラインで研修を行っている。年1回虐待について自身と他職員について聞き取りを行い、施設内でどんな課題があるのか見つけ出し、防止に努めている。	/	/

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通し学んでいる。必要だと思われる方にはご家族や包括などに相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については法人の代表が説明、コロナ禍ではオンラインを通して行っている。管理者は事業所内で立ち会っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望をいつでも受け付けている。アンケート調査を年に1回行い、法人内、事業所職員で共有し、今後の運営に反映させている。	毎月、彩り通信とサービス提供状況報告書を家族に送付し、理解と協力が得られるよう努めている。家族の来所時や電話等でも、意見や要望を聴いている。毎年、法人全体で家族アンケートを実施し、アンケート結果について話し合いながら、利用者サービスの改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議や月数回のカンファレンスで意見や提案を聞き、運営に活かせるよう職員と話し合っている。日頃も相談に乗り、面談の機会を設けている。	管理者は、月1回の施設会議、月数回のカンファレンス時に、職員の意見を聴き、話し合いながら運営に活かしている。管理者も現場に従事しながら、職員が意見を表出しやすい関係形成に努めている。また、個別で話を聴く機会も作り、相談ごとにも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い向上心ややりがいもてるよう職場環境の整備に努めている。休憩時間になったら声かけをしスタッフが代わるように努力、協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修勉強会をオンラインにて開催している。外部研修を受ける機会が確保されており、行き易いように周囲への協力の声掛けやフォローがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・リーダーは毎月幹部会議に出席し交流している。研修に出た時に同業者と交流することができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談から聞き取った情報を確認して安心して暮らせるように努め、よい関係が作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成者でご家族等の気持ちを傾聴し、よい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの困り事や心配な事など、ご家族等から傾聴し、ご本人の利益を重点においた支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者がお手伝いを申し出て下さる事が多いので出来る事をお任せしたり、一緒に家事などを行ってお礼を伝えるなど感謝の気持ちを忘れないよう気を付けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を思いつつ、家族と相談し一緒に本人を支えていける関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の出来る事を模索しながら、オンラインや電話を使って友人、親戚ご家族との関係が続くよう支援に努めている。	家族や親戚、知人などの訪問者も多い。今までは、近隣の商業施設への買い物や外出に出かけ、馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援に努めていた。コロナ禍の現在は、窓越しでの面会やオンライン面会など、関係を継続する為の方法を工夫しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が弾むよう、会話に入るなど良い関係作りに配慮している。また一緒に作業や家事等をしながら、会話の橋渡しをして利用者同士が気持ちよく関わり合える様に支援している。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援を求められたらいつでも応じる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に思いや希望を確認しながら希望に合うよう行動している。困難な場合は日々の会話や表情をみてケアに繋げている。	職員は、収集した利用者の情報を入居時から職員間で共有し、支援に反映させている。思いや意思を伝えることが難しい利用者も多くなってきているが、表情や反応、言動からも推測し、利用者の意向に沿える支援提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取った内容をヒントにして、ご利用者様と会話を通して今までの生活歴や馴染みの暮らし方などを理解し他職員と共有、確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人個々に応じて生活できるよう支援をして記録を残し状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス、施設会議にてご利用者について現状に即した方法を話し合い、ケアマネが概ね3か月ごとにモニタリングを行い意見やアイデアを介護計画に反映させている。また体の変化など利用者に変化があった場合は介護計画の見直しを行っている。	サービス担当者会議の開催前に、家族との面会、電話やZOOMIによるオンライン面会等で、本人や家族の意向を確認し、介護計画に反映させている。訪問看護とも連携しながら、利用者を主体に考えたアセスメント、モニタリングを実施し、介護計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	統一するケアの方法などノートを使い情報共有を行っている。個人記録は昨年タブレットに変更、日々の生活状態を残し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の願いを受け入れるように、ご家族に協力頂きながら柔軟な対応ができるようにしている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の興味や得意な事など一緒に取り組めるよう回覧板や広報、新聞などから情報の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族様の希望を大切に、継続的な医療が受けられるように良い関係を築くよう努力している。協力医、訪問看護は24時間の医療連携体制がとれている。	契約時にかかりつけ医について説明し、利用者と家族が選択している。現在は協力医を選択する利用者が多く、2週間に1回の往診を受けている。訪問看護も24時間の医療連携体制がある。歯科医師の訪問も定期的であり、利用者の健康管理体制を充実させている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつでも訪問看護師に電話で相談できるようになっている。週1回の訪問があり、毎週気づいた事、様子を伝え、必要な場合の適切な受診や看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者・家族との情報は記録されており職員全員が把握できるようになっている。管理者、ケアマネが病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明をし、方針を親族で考えてもらっている。体の容態の変化の都度、説明を入れながら方針を決めて頂き、ご本人、ご家族の希望があればご家族の協力を得て看取りを行っている。	契約時に、重度化や終末期の対応について利用者と家族に説明し意向確認を行っている。様々な法人研修やホーム内研修等を実施して学びを重ね、適切な看取り介護が行えるよう取り組んでいる。職員は、医師や看護師のサポートを受けながら、良質な支援提供に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	座学は行っているが実践力を身に付ける機会を設けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月水害、避難、地震、通報訓練を行っている。反省や気づきを次の訓練に活かし、避難方法を検討し、慌てず誘導ができるよう取り組んでいる。	行政から提示された防災計画マニュアルに沿って、管理者と職員が、ホーム独自のマニュアルを作成している。水害時対策については、同法人事業所と共同で、見直し作業に取り組んでいる。災害訓練は、毎月実施し、備蓄品の点検や防災グッズ制作など、多様な災害に対応できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りを傷つけないよう言葉使いに気を付けて対応している。特に排泄、着替え、入浴時には気を付け、声をかける前に考えてから言葉かけするようにしている。	職員は、利用者の尊重とプライバシーの確保について、研修でも学んでいる。職員間で互いのケア方法や利用者への関わり方について確認し合い、課題が見つかった場合には、アドバイスやサポートを行いながら、より良いケアの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に希望を聞き、実現出来るようにしている。本人様に合わせた方法で自己決定がしやすいように働きかけている。自己決定が難しい方は「これはどうですか？」と1つずつ聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の希望に沿った生活ができるように支援している。ご利用者一人ひとりのペースを大切にするよう努力している。こちらの都合に合わせて頂ける時には感謝し、受けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについては一緒に選んだり、選べない方には提案という形で声をかけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや味付けの相談、食事の準備や片付けを一緒に行い、きれいな食材や食べにくい物、利用者に合わせ食べ易いように提供している。コロナ禍のためご利用者と職員は一緒に食事はしていないが、再び一緒に食事ができる日を心待ちしている。	利用者も献立作り・調理・片付け等、出来る事を職員と一緒にやっている。栄養バランスを考慮し、食材配達も利用している。コロナ収束後には、以前のように利用者と職員が、一緒に食事ができる事を願っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量、水分摂取量を記録として残し確保できるよう支援している。不足しがちな方にはお好きな飲み物や代替品を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後声掛けを行い、無理強いにしないようにご利用者に合わせた口腔ケアの支援を行っている。毎食後はできない方もいるがお茶を飲んで頂くなど口の中の汚れを減らすようにしている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が起きないようにご利用様が立ち上がる時に声をかけ提案している。本人様からの訴え以外にも時間、間隔をみて誘導している。ご自分で行かれる方は見守りし、汚れがないか確認し支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけとトイレ誘導を行っている。日中は、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。利用者の状態に合った排泄用品を選択し、自立支援と共に、経済的負担の軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	掃除を一緒に行い身体を動かしたりするよう声をかけさせてもらっている。砂糖のかわりにオリゴ糖を、ヨーグルトや果物を買うようにはしている。テレビ体操やご利用者の好み把握し工夫した水分摂取など心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日準備し、ご利用者の希望に合わせてられるよう個々にそった支援をし、ご利用者のペースで楽しんで頂いている。二人介助が必要な方は予め決めた日に入浴して頂いている。	入浴は週2回を基本としている。職員は、利用者がリラックスして、ゆっくりと入浴ができるよう配慮しながら支援している。安心・安全な入浴支援のために、個浴槽にリフトを設置し、職員の腰痛予防にもつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで安心して休まれるよう温度調節を行い、休息されている。就寝時間も特に決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため名前と曜日を声を出して職員同士確認しあい、飲み残しがないよう見守っている。薬局からの薬の説明書に目を通し副作用などの理解に努め、症状の変化に気づけるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好きな物、やりたいことがあれば希望に合わせて支援している。コロナのため屋内での作業や楽しみ事で気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナもあり現在は外に出る事が少なくなったが外に出たいと希望された方には出来る限り支援している。コロナ禍により外出や面会も少ないですがオンラインや窓越しで少しずつ面会でできてると思う。	感染予防対策の為、近隣の店への買い物や外食などの外出も自粛しているが、「下校時見守り隊」の継続、周辺の散歩、ホームの庭での外気浴など、戸外で過ごせる機会を設けるなど、工夫しながら支援している。	



岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で持っていたいと希望される方にはご家族には管理が難しい事を了承頂き、お渡ししている。コロナ禍でスタッフが代行で買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様自身が携帯電話を所持しており自らが電話している。年賀状や暑中見舞いのはがきを一人ひとりのペースに合わせた支援をして書き送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂く為不快に思われぬよう掃除など気を付けている。季節の花やポスターをかざり季節感を取り入れている。月に応じて壁に飾ったりテーブルに花を飾っている。	今年度は感染予防対策として、共用空間への入室はせず、写真や動画、管理者の説明で確認となった。大きな窓のある明るいきりびんぐは、利用者が安全に移動できるよう、椅子やテーブルの配置を工夫している。また、好きな場所で寛げるよう複数のテーブルがある。壁には利用者の作品、季節の花や装飾品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には2, 3人で使えるようなテーブルを数個準備。好きな場所でテレビをみたり、ドリルをやったり、日光浴したり、数人でゲームをしたりと思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が使い慣れたものや大事なものをご家族の協力を得ながら準備し、安心して過ごして頂ける居室作りを心がけている。	感染予防対策の為、写真や動画、管理者の説明で確認となった。大きな窓があり、光と風の調整が行える。利用者は、使い慣れた家具、仏壇などの設置を家族と共に行っている。また、家族の写真や作品を掲示するなど、利用者が心地良く過ごせる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はきれいにするようにし、掃除や片付けを行っている。ご利用者毎にわかるように表札や目印に工夫をしたり、トイレの案内表示をしている。また、不安や混乱が起きないように物品などの置き方に注意している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和3年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2Fの理念は「自由に笑って過ごしましょう」を掲げており、いつも目に見えるところに掲示し共有している。カンファなど理念を基に話し合いながら振り返り実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動などの地域の行事に参加している。現在、コロナ禍で開催中止が続いているが、再開されたら感染対策に注意し参加したい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と近所に出かけ、買い物や地域の方との交流の中で、認知症の方の理解が深めてもらえたらと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、予め報告書をお渡しし、意見を頂いている。感染症対策や非常災害について報告、アドバイスを頂いてサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	PCR検査や感染予防対策、避難確保計画の作成についての研修会等に参加し、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強をして理解し身体拘束しないケアに取り組んでいる。3か月毎に身体拘束「0」にしよう会議を開催し、一人ひとりの拘束の可能性とその回避について話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月2回の法人代表がオンラインにて虐待防止研修を開催し全員参加としている。年1回虐待について自身と他職員について管理者が聞き取りを行い見過ごされないよう注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通し学んでいる。必要だと思われるご利用者にはご家族や包括に相談するなど支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については法人の代表が説明、コロナ禍ではオンラインで行っている。管理者は事業所内で立ち会っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望をいつでも受け付けている。年1回アンケート調査を行い、法人内、事業所職員で共有し、今後の運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファや施設会議、直接管理者へ、休憩時間の見直しや業務内容などの意見や提案を伝え、職員と共有し話し合いながら反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その人の状況、生活環境に応じて柔軟に勤務調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けステップアップできるように行っている。社内研修の機会が多く、オンライン研修が導入され参加しやすくなった。社外の研修は申し込みしたりと大変な事もあるのでありがたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・リーダーは毎月幹部会議に出席し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人の困っている事や不安な事、要望をアセスメントし、それらを職員間で共有し安心して頂けるための関係づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族の困っている事、不安、要望などアセスメントして職員間で共有し、ご本人、ご家族との良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から話を傾聴し、必要だと思うサービスの対応も含めて考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援もさせていただきますがその方が得意な事を知って一緒に行っている。職員が困った時にはお願いすると手伝ってくださるのでお互い支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆が途切れないよう、ご家族に今のご利用者の状態をお伝えし、相談しながら支えていける関係づくりを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔のご友人が訪ねて下さったり、コロナ禍前は週2回の集会に出かけていたが、コロナ禍になり疎遠になってしまったが、ご友人との協力でオンラインで参加して頂き、張りのある生活につなげる事ができた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しくゲームができるよう職員も加わって支援している。ご利用者同志の関係やその日の出来事を把握しながら、気分良く過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援を求められたらいつでも応じる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご利用者一人ひとりの思いや意向を会話の中から汲み取り検討している。会話など困難な場合は表情やこれまでの生活歴などから検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを基に、サービスの利用の中でもこれまでの事を把握するよう努め、他職員とも共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々や体調などタブレットに残し、一日の過ごし方や現状の把握に努め支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の気づいた事などあった場合は直ぐ管理者やケアマネに相談したり、モニタリング、カンファレンスで出たことをご家族に意見をもらいながら反映したケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに他職員にも分かり易いように細かく残すよう努めており、カンファレンスで情報の確認をしながら日々の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも柔軟な支援ができるように知識を広めたり地域の資源の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に出展するための壁絵を毎日コツコツと作成し、文化祭を見に行つて他の作品にふれ刺激をもらうなど楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族の希望に沿つて良い関係を築くよう努め、月に2回の往診では日々の事、気づいた事を報告、支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に、日常の情報や気づいた事を相談し、助言をもらっている。必要な事はいつでも連絡がとれ、主治医とも連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は主治医からの情報提供をお願いし、管理者、ケアマネも必ず同席している。病院関係者とも情報交換を行い早期に退院できるよう準備を整えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時よりご家族に方針を決めて頂けるよう話をしている。体の変化の都度話し合い、主治医や訪問看護師とも情報の共有、協力しながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	座学は行っているが、実践力を身に付ける機会を設けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練をしている。反省や気づきを次の訓練に活かし慌てず誘導ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に忘れないようにし、言葉使いや態度には気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の力に合わせ、自己決定できるように工夫して行っている。ご利用者が言葉で意思表示ができない方でも表情などを見たり、ご利用者が嫌だと思ふ事も発信しやすいよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のその日の気持ちを尊重し無理にお願ひしないよう心がけ、断っても大丈夫な雰囲気作りを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや、季節にあった服、持ち合わせの服でおしゃれができるよう一緒に組み合わせを考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を聞いたり、食べたい物をお聞きして準備、後片付けを一緒にしている。自らすずんで行ってくださる方がおられるのでこちらから断ることはなく一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し、必要な方はご利用者の力や習慣に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼は全員とまでは行かないが、食事介助の必要な方には必ず行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンに合わせてトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らせるよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナジュースやヨーグルトなど、飲食物の工夫や、必要な方には腹部マッサージや薬を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日沸かし、入浴時に入るか入らないかお尋ねし、断られた時には無理強いしないようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、寝られる時間は決まっておらず眠くなられた時に休んで頂いている。昼間、お疲れのような時には休んで頂いたり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書が個人ファイルに挟まっているのでいつでも確認できるようになっている。主治医、薬局とも連携をとり、薬の形状の相談や飲みやすい薬の変更など症状の変化に気を付けながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分らしく生活して頂くにはどう支援していくか職員間で話し合っている。得意な事の作業レクへの参加やドライブへと出かけ気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍のため人の多い場所などへは出かけていないが、ドライブや散歩など楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室でご自身でお金を管理されている方もおり、コロナ禍では職員が買い物の代行をし、レシートと残金を確認されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時、また掛かってきたときはおつなぎしている。携帯電話を持っておられる方もいてご自由に連絡をとられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるように壁に飾り物をしたり、汚れ等に気づいたらすぐに掃除をし心地よい空間になるよう気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室だったり廊下に椅子を置き一人になれたり、人の気配を感じながらもひとりになれる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が昔されていた馴染みの物を置いていたり、日々の会話の中で馴染みの物などが出てきたときは、ご家族に相談して協力頂いて、居室に置いたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険がないよう物の配置等や、自立した生活ができるよう一人ひとりの力に合わせた分かり易い目印をつけるなど工夫している。		